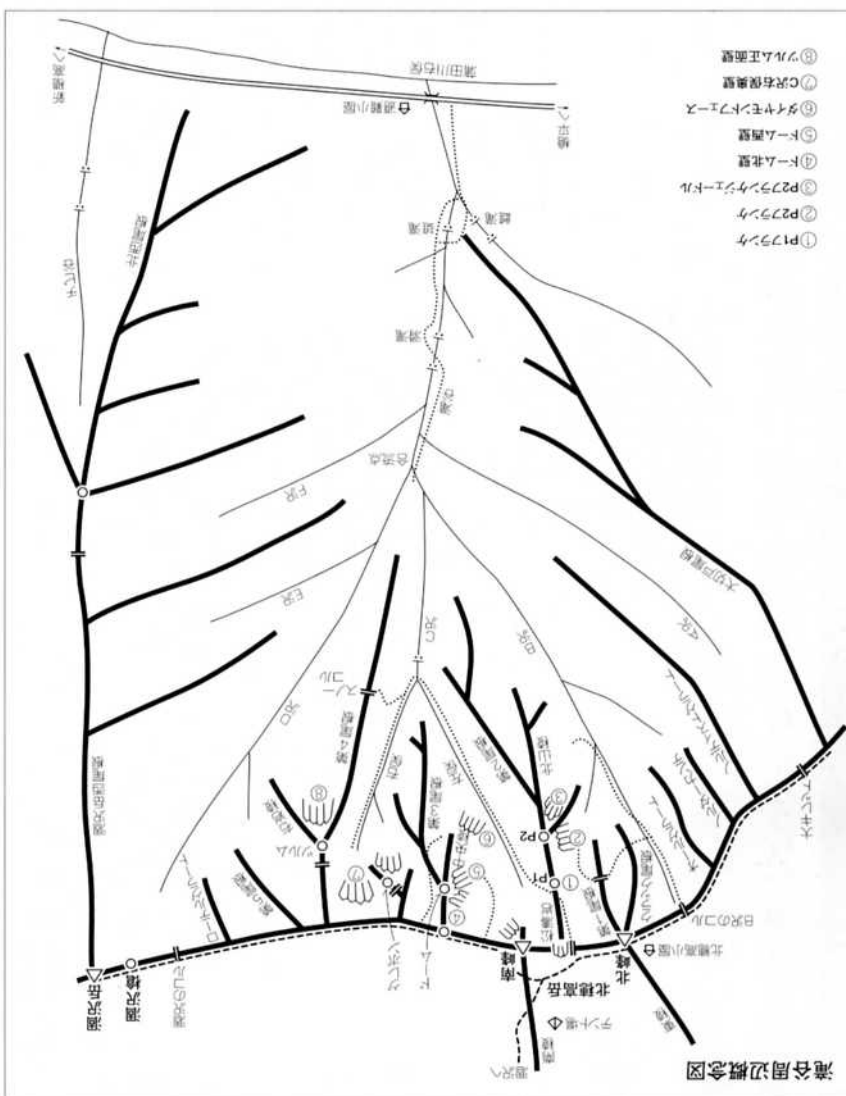
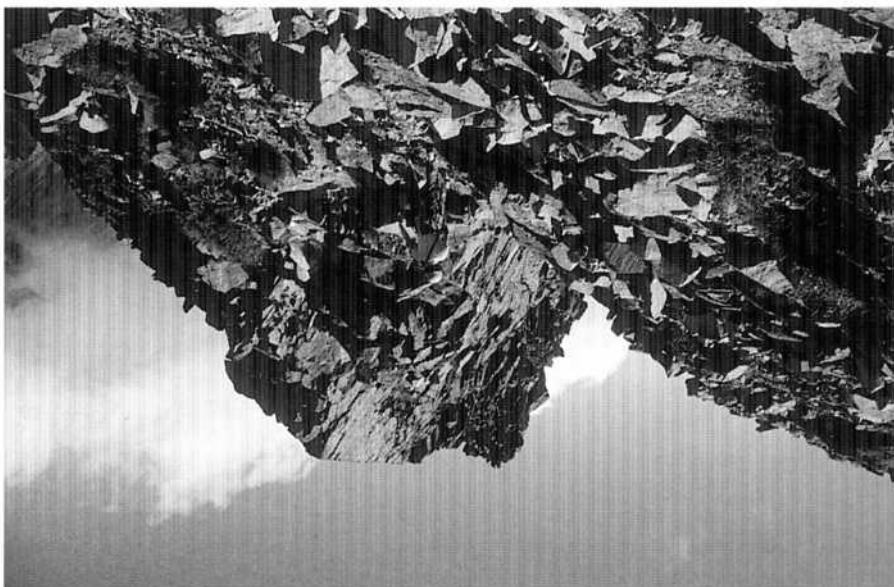


Challenge! Alpine Climbing

滝谷周辺概念図



フロッグ尾根へのアプローチ手は北奥小湊から大キレット側と下って行き、B沢の川からとなる。

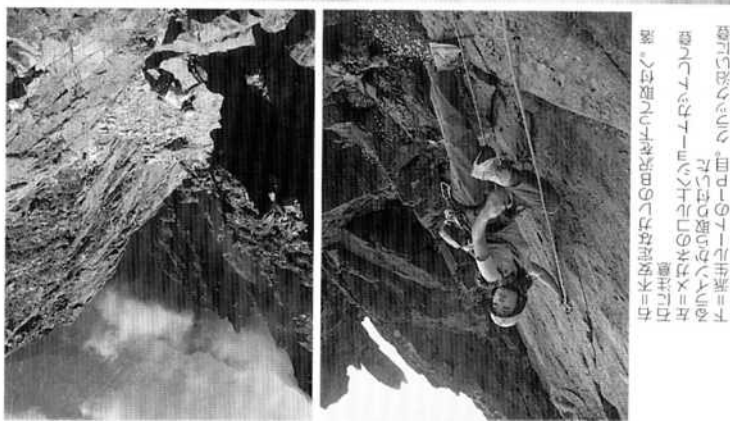
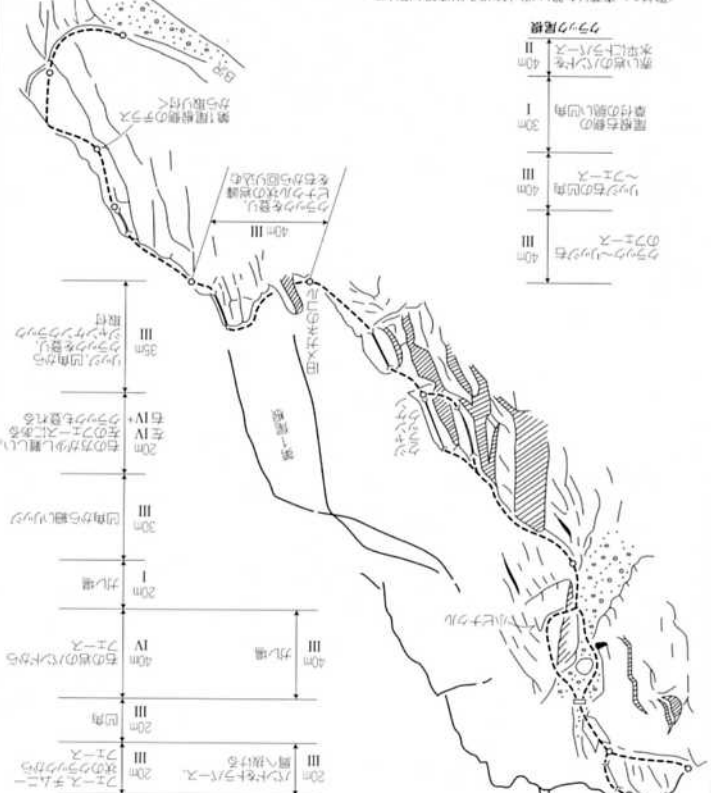


山道道からスエーデンへ行く。難路を走つて出るのだから、各
各トルート、終つて、スエーデンへ出るのだから、各
登下

動差
前參頂のトールをばらにかいて北
北國、はてまで北極、チローフ
チローフと云ふ。能く行動する。

[illegible][illegible]

眞要

[illegible][illegible][illegible]

3級上 IV + 2 ~ 3 時間

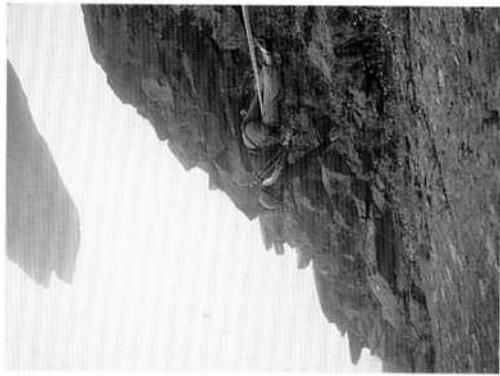
第二も尾根連つてツク尾根は珍らしいところだ。北小屋から

取付へは北越からキックストへと向かうが、近いうちに、98年の地震で被災している地域でB震周縁の状態が分悪化する可能性がある。

落へけ取てて下をきき、日のしかなき木をさへ



6P目のジャンククラックは、クライミングに登れて楽しい。第一尾根やP2クラックを望みながらクライミング



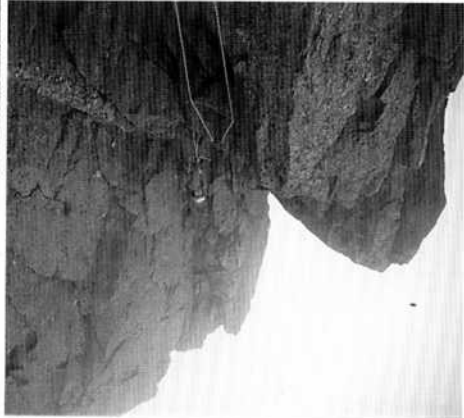
尾根に上がりメカネのクリ上の階段状の岩を登る。溜台は天候が変わりやすいので入の中のクライミングも多い



左=リクショソの狭く甚、思い切ったフットワークで登れる下=ピンチテラスから最後のイエスを登る。北穂の山頂はもう近い



1/ピンチからイエスを登る



同面を登り1/ピンチのテラスへ



右=リクショソの狭く甚、思い切ったフットワークで登れる下=ピンチテラスから最後のイエスを登る。北穂の山頂はもう近い

廣川健太郎 (CCC) 1978年8月15日、長谷川文、

「登」だ、右寄りの方に取った方が速い。

が、最後で北左に抜ける。P8に出る。最終的に

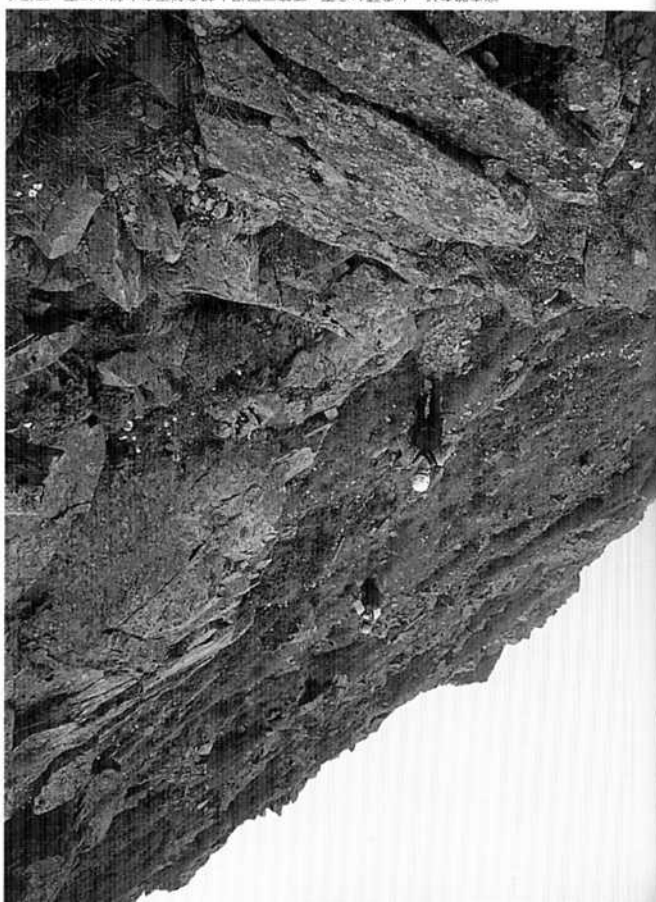
3級 V 1 2 3 時間

[illegible][illegible]

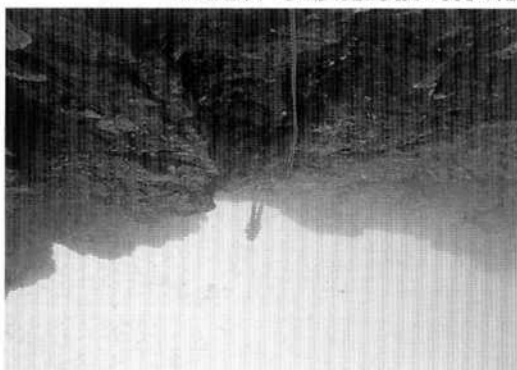
上直、かゝるの角回、目、

[illegible]

坂走路をT-1の頭から下って第三尾根上部の斜面を右斜めに下って行く



上=1P目の四角のフラグから取り付く
左=1P目、上部から二一出口のフラグを越える



11から20mの懸車で12に降りる。上を見て右に13のツバを辿ると取付となる。もうガスが湧いてきた



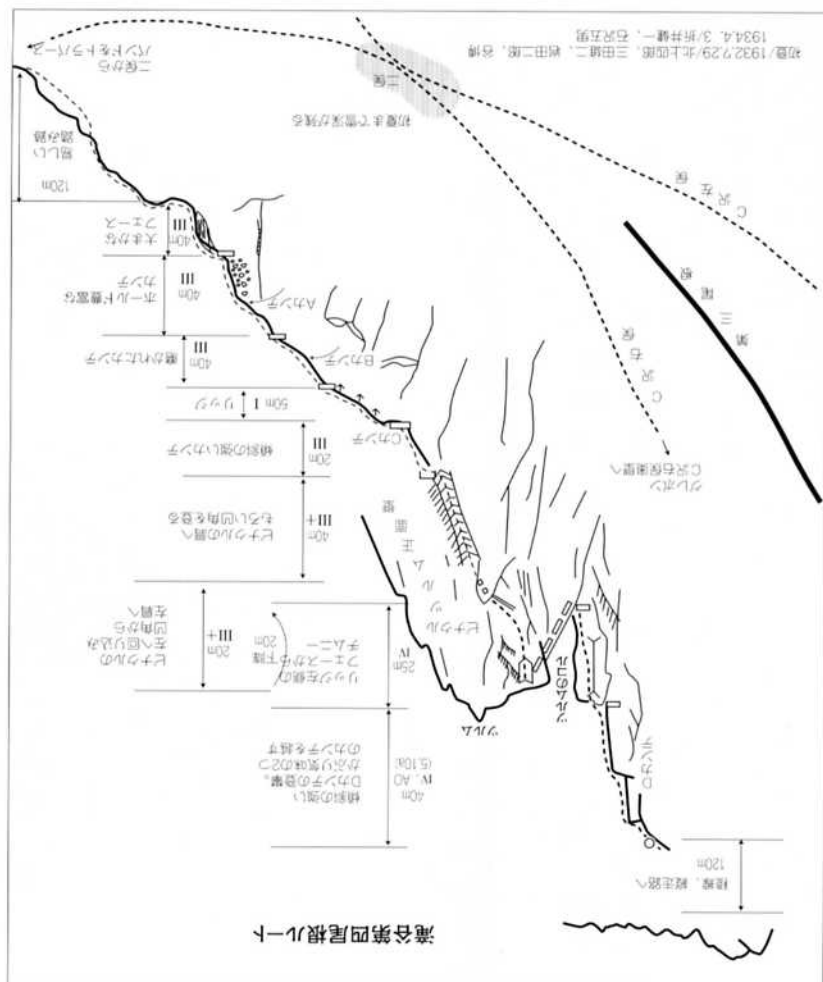
第四卷

二度は登りたい日本のカルト

4級下 IV A 0 (V) 3 ~ 4 時間



沼沢から北穂南穂を越えてのアブローチ。背後の前穂北尾根が大きい。

[illegible][illegible]



武内康雄、高橋大成、廣川

〔登〕月日 97年7月20日、

あ、ち、う、ち、の、お、か、み、は、

三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

、三上、三下

[illegible]

語一見解之ハカキト喜ニ聞

シムシムと

る。初、心者、以外はアノサノ

斜に面が凝る手詰り禁い

い(二)を抜ける、と、やばい、

○いしをふがくりーホの

登る、抜ける口の小八の扶

頃計の漁力之ヲ定メ

自6、7、8月

上

7

留不勝其多

タンスも安定しております。

十分にある、ホールに、ス

尾根の核心部だが、支点も

た先の、8、9 P 目が第四回

原が、ある20mの山を垂直して

支那の人口の増減

 $\frac{1}{2} \left(\frac{\partial^2 F}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 F}{\partial y^2} \right)$

○ 在 1990 年、(回)

300

多に於ては、

子午月

6P目にて

5 p. 傾斜の強いところから短めに

下降文点がある。

其辭のハナハタ其王ヲムシテ其手ヲハナシ

「は、はい。それでは、さういふお話を聞かせていただきます。」

人無之、乃以爲其不

鮮の国境に力を入れた。

飛鳥

入を右としてAから出て右に出る。
2P目の

1P、目、ぼき右の多いとおまかなうし

ほどを登り、実質的な登攀開始となる。

山 0212 土 6 土 2 眞 景 科 2 美 1 土 1 /

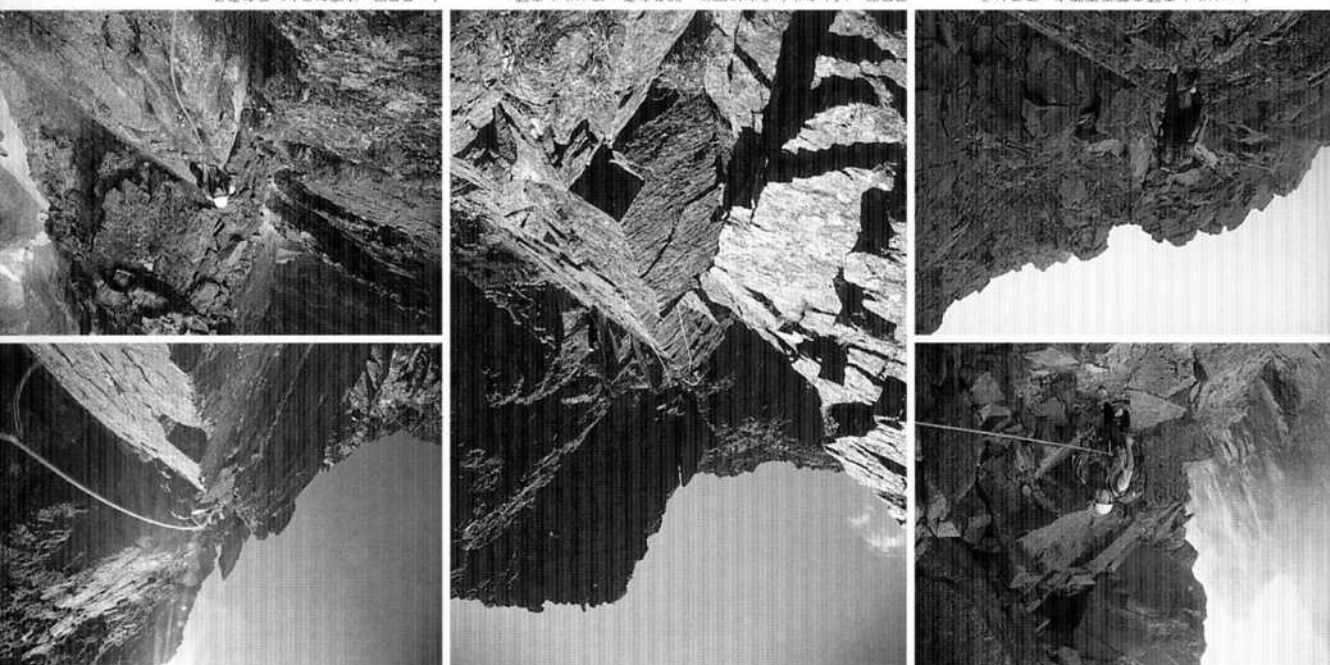
取付か、やうにして草付を發する。

○ 2017 年 7 月 1 日

一、問題、

上=浮き石の多い穴左保を下る。足首の深
目のしつかつた靴を履いた方が安心だ





上=ツルムの頭の懸垂下降点。これから20m懸垂下降して、核心部の8P目へ下=終了点から縦走路へ、横壁に一般登山者がいる場合はよくに落石に注意し、自分も石を落とさないように

7P目。ピナクルから左に回り、凹角を登ってツルムの頭へ

上=5P目。快適なCカンチを登る
下=Cカンチ取付の上を登る。この鋭角のカンチが四尾根の醍醐味である。

ツルム正面を前にAカンチを行く。奥にBカンチが見える

